

# AIDS UPDATE

No.71 2007.4.20

広島大学病院  
エイズ医療対策室  
内線5581(輸血部長室)  
Internet:www.aids-chushi.or.jp

## 4月から新規採用されたみなさんへ。

4月から広島大学病院で働くことになったみなさん、初めまして！エイズ医療対策室です。

エイズ医療対策室では、HIV/AIDSケア、臨床研究や医療従事者への教育などを院内外の関係者と連携しながら行っています（詳しくは以下参照）。

毎月発行しているこのエイズアップデート。今回は新規採用された皆さんへ当院のHIV/AIDS診療体制のご紹介を、また、診療従事者向けにHIV急性感染に症についてのコーナーを設けてあります。

院内への情報提供をすることによって、HIV/AIDSケアの向上、HIV/AIDSへの関心を高めることを目指して頑張りますので、これからどうぞよろしくお願ひ致します！



## 当院でのHIV/AIDS診療体制

### 政策医療としてのエイズ

エイズはHIV感染症の末期状態を定義している言葉であり、HIV = AIDSではありませんが、ここでは併せてエイズと呼ぶことにします。エイズは新しい病気であるために、医療の地域格差が激しいと言われていています。診療だけではなく研究と教育を合わせた政策医療を展開するために、1997年に厚生労働省はエイズ診療の拠点病院体制を作りました。

### エイズの診療体制はピラミッド構造

エイズ診療体制のナショナルセンターは、東京の国立国際医療センターの中にあり、エイズ治療研究開発センター(ACC)と呼ばれています。全国は8つのブロックに分けられ、本院は県立広島病院、広島市民病院とともにブロック拠点病院に指定されています。この3つの病院を私たちは「中四国エイズセンター」と自称しています。

中四国9県には、60ヶ所のエイズ拠点病院があります。今年から各県に中核拠点病院が置かれ、県内の連携と研修を担うこととなります。広島県では県立広島病院と広島市民病院が担当することになりました。つまり、拠点病院－中核拠点病院－ブロック拠点病院－ACCという階層になります。

患者数の少ない中四国地方でこのような図式が良いのかどうか分かりませんが、各医療機関が連携を図ることによって、地域の患者さんたちへの医療提供の量と質を上げていくことが求められています。



### エイズ医療対策室

広島大学病院はブロック拠点病院の指定を受け、院内措置としてエイズ医療対策室を設置しました。現在は外来棟1階南西の職員通行口、医療相談室と並んだ場所にあり、スタッフには専任の医師、看護師、心理士、ソーシャルワーカー、情報担当がいます。

HIV感染症やエイズは症状に合わせた臨床科が対応しますが、平素は血液内科の外来で私たちが専門的な診療・ケア、そして希望者へのHIV検査を提供しています。学生や卒業研修、院内外の医療者への教育研修、印刷物やウェブを利用した情報提供、そして臨床研究などを行っています。詳しくは私たちのウェブをご覧ください。[ [www.aids-chushi.or.jp](http://www.aids-chushi.or.jp) ]

(エイズ医療対策室長：高田)

## HIV急性感染症について



### こんな時HIV急性感染症を疑って欲しい！

発熱、皮疹、関節痛、筋肉痛、全身倦怠、咽頭炎、口内炎、寝汗、体重減少……これらの症状を患者が訴えていたら、他の急性ウイルス性疾患と同時に「急性HIV感染症かも？」を頭に浮かべてください。

### 急性感染症 感染経路と時期

HIV感染の危険があるのは、HIV陰性とわかっていない人との防護のない性行為(膣、肛門、口)です。感染危険行為から1～6週間以内に症状が起こっているのなら、急性HIV感染症の可能性があると考え、HIV検査を勧める必要があります。



### HIV抗体検査とウィルス量測定

急性症状が続いている時期には、ウィルス量が非常に高いことがあり、またHIV抗体も十分にできていないことがあります。このような場合はHIV抗体だけではなく、HIV RNAも調べるべきです。すでに症状が収まったあとなら、HIV抗体で十分でしょう。

この時期にHIV検査を勧めるメリットは二つあります。まず、急性症状がなくなったら、HIV感染者が次に医療機関を受診するのはずっと先、エイズ発病の時になります。HIV感染を知ることによって、エイズ発病しないような治療に導くことが可能になります。二つめは、自分の感染を知ることによって、性行為による他社への感染を防ぐことにつながります。

「エイズの検査を受けてみませんか？」と患者さんに提案し、検査を受けられるよう援助するスキルが必要になります。

(エイズ医療対策室長：高田)

## 冊子のご紹介

厚生労働省・エイズ対策研究事業の補助金を使用して、昨年度HIV検査についての小冊子を2冊、血友病診療についての冊子を1冊改版しました。

『HIV検査について HIV感染のリスクを伝えて検査を勧める医療者のためのガイドブック』

『初めてでもできるHIV検査の勧め方、告知の仕方』

『2007年版 血友病診療の実際』



関係診療科に1冊ずつ配布させていただきますので、お気づきの点などありましたらお知らせ下さい。冊子の追加を希望される場合は下記までご連絡をお願いします。

### <ご意見募集>

ご意見やご希望がありましたら、エイズ医療対策室(5581/5351)までお寄せください。

[TAKATA]

nobotaka@hiroshima-u.ac.jp